



山行報告



■扁妙の滝と笠形山

- 日 程：2月12日(月・祝)
- 参加者：L上田 SL和田 乙坂 木下 黒本 島谷 西口

- 行動記録：グリーンエコー笠形 9:10～キャンプ場(9:30 着)9:40 発～オウネンの滝 9:50～扁妙の滝(10:05 着)10:15 発～滝見台(10:30 着)10:35 発～五合目(11:10 着)11:20 発～笠形山山頂(12:10 着)12:40 発～グリーンエコー笠形 14:30

♣♣扁妙の滝と笠形山(初めてのアイゼン登山)

黒本

今回は、アイゼンを履いての雪山登山デビューとなりました。「扁妙の滝」の氷瀑状態も9割程で綺麗な氷瀑が期待できるとの情報。笠形山の天気は晴れ、風速は10mの予報。寒さ対策をしっかりと、雪山登山の不安とワクワク感でJR宝殿駅を8時に出発。市川PAで姫路駅組と合流し、途中雪景色を見ることなくグリーンエコー笠形に到着。

入山届けをし、駐車場でストレッチをして出発。キャンプ場は、薄っすらと雪が残っている程度でした。この先広場がない為アイゼンを装着して登山道へ入り10分程で滝に到着。2日前の雨で水量が多く、勢いよく流れる滝を見て、「なんか期待していた滝と違うし、全然凍り付いてない?」と思っていると、「オウネン滝」で目的の「扁妙の滝」ではないと聞き納得。

落ち葉が凍りバリバリと足音を立てながら15分程進み、オウネン滝より高くして白い壁のように氷瀑した「扁妙の滝」に到着。凍り付いた滝の迫力と氷壁の裏側で水が流れている光景を初めて見て、自然が創り出す芸術的な美しさに圧倒されました。滝見台上り滝を上から眺めながら休憩、登山道に戻り山頂を目指し出発。樹林帯は、風がほとんどなく木の間からは青空も見えました。



6合目辺りから地面はアイスバーンのようになり、7合目、8合目と登るにつれ氷も硬くなり、ストックも突き刺さらない所もありました。ザックザック、ギョッギョッと氷を踏みつけるごとに林に響くアイゼンの音も心地良かったですし、谷川でも、雪の下を水が流れる光景は、滝とは違う良さがありました。8合目辺りで尾根に出た時には、遥か下に集落・田畑を眺めることができました。9合目になるとガレ場となり、歩き辛かったですが無事登頂。

頂上では風が強くとても寒くて、食事・写真撮影を済ませ、30分位で下山開始。

帰りは、ピストンで途中迂回して2時間弱で下山。キャンプ場の広場でアイゼンを外し、ストレッチをして温泉に入り、17時頃にJR宝殿駅につきました。

初めての雪山登山でしたが、天候に恵まれ(頂上は極寒でしたが)アイゼンでの登山も気持ちよく歩けました。アイゼンがあれば滑る心配は無いが、爪の引っかかりや躓きに気を付ける等の学習もできました。笠形山は、初めてでしたが季節を変えてまた登りたいと思いました。

リーダー様、運転手様、お疲れ様でした。山行メンバーの皆様楽しい山行でした。ありがとうございました。



■高見山・三峰山 霧氷と展望をたのしむ

- 日 程：2月17日(土)～18日(日)
- 参加者：L砂川 SL尾内 河合 澤田(律) 高島 田中(重) 田中(由) 西口 森本

● 行動記録：

- (17日) JR加古川駅 8:30 発ーたかすみ温泉(12:00 着)12:40 発～避難小屋(13:50 着)13:55 発～小峠分岐(14:30 着)～高見山(15:10 着)15:30 発～小峠分岐(16:00 着)～避難小屋(16:20 着)16:30 発～たかすみ温泉(17:15 着)17:30 発ーグリーンライフ山林舎(18:00 着)
- (18日) グリーンライフ山林舎 8:00 発ーゆりわれ登山口(8:35 着)8:55 発～八丁平(11:00 着)～三峰山(11:10 着)11:20 発～福本登山口(12:25 着)12:40 発～ゆりわれ登山口(13:15 着)13:20 発ーJR加古川駅(18:15 着)

♣♣高見山(1248m)の樹氷を期待して

河合

平野登山口(たかすみ温泉)を12:40頃出発する。早々と下山して来る人があり、途中でアイゼンを装着した頃には次々と団体が下りてきた。

樹氷、霧氷を求め登山者が多い。ジャカジャカ足音を立て進んでいると私にトラブル。細かい目の菱形金網の鉄板が敷かれた場所でアイゼンの爪が入り込み両足が抜けない。真っ直ぐに足を上げると良いと助言をもらい、試すも、気持ちが焦り、数カ所の鉄板を通過するのは恐怖だった。

避難小屋で足を止めていると寒い。国見岩、揺岩、笛吹岩を過ぎ尾根筋に出た途端に、体験したことのない強風にあおられ幾度も立ち竦む。踏ん張っても飛ばされそう。それに寒い。

避難小屋についたが樹氷が無い。すぐ先にある頂上の展望を見る気持ちにもなれず15:30にピストンで下山する。またしてもアイゼントラブルで皆さんに助けてもらう。アイゼンの6本爪が皆さんの倍ぐらいあるのが原因だ。17:00時ごろ平野登山口に下山する。

公共の宿の山林舎で桜の薫る浴槽と牡丹鍋を堪能し今日の辛さを忘れる。



今回の山行は、私にとって初めて雪山でアイゼンをつけて歩くということで、1週間前に申



し込んだ時点から緊張していました。6本爪のアイゼンで大丈夫だろうか、ストックには雪用の準備をして、また山頂の寒さはどれくらいの体感なのだろうか、心配はつきませんでした。

1日目は無氷だったので、2日目の三峰山には期待を大にして朝を迎えました。

三峰山は、奈良県側から登るコースと、三重県側から登る3コースがあります。私たちは三重県側の「ゆりわれ登山口」からアイゼンを付けて登り始めました。快晴のもと、自然林道を歩いて行

くと、南の方角に大台ヶ原の山並みが視界に現れ足元のサラサラスノーパウダーの雪を踏みしめるのを楽しんだり、また顔を上げて美しい山並みを見たりと自然の美しさに感動しながら歩いていました。すると、周りの木々に霧氷がちらほら。お天気が良いので“溶けてしまわないで〜”と、願いながらさらに進むと八丁平の辺りでは、全面の木々が真っ白で足元はスノーパウダーの深い雪。会長さんが「サングラスした方がいいよ」と言われるくらい、真っ白と晴天の青。頂上ではそんなに風も無く、霧氷の先には室生の山々がはっきりくっきり見えました。充分写真を撮る時間をとっていただき、さあ下山。

ところが「福本登山口」への下る山道が、丁寧な目印が見当たらず雪に隠され、リーダーさんたちが迷われていましたが、流石にすぐに道を見つけてくださり杉林の中を駆け下りました。

アイゼンがあるほうが下りは楽に思いました。途中、霧氷が溶けて木から離れ風に吹き飛ばされて、紙吹雪のようにひらひら舞う幻想的な景色も楽しませていただきました。



会長さんにおかれましては、片道3時間の運転の後、山に登り、下った後もすぐに車の運転をしてくださりお疲れの中、安全運転をして頂き感謝致しております。また、今回のパーティーの皆様のおかげで不安で一杯だった山行が、感動の山行で終えられたことに感謝致します。本当にありがとうございました。



■六甲全山縦走トレーニング西コース

- 日 程：2月24日(土)
- 参 加 者：L 森本 SL 赤木 上田 香川 兼澤 木下 土井 橋本(健) 前川(克)

- 行 動 記 録：須磨浦公園駅 8:05 発～須磨浦公園展望台(8:30 着) 8:35 発～高倉団地(9:15 着) 9:20 発～梶尾山(9:40 着) 9:45 発～須磨アルプス(10:00 着)～妙法寺(10:55 着) 11:05 発～高取山(11:55 着) 12:20 発～神鉄鶴越駅(13:00 着)～菊水山(14:25 着) 14:30 発～鍋蓋山(15:30 着) 15:40 発～大竜寺(16:05 着)～市ヶ原(16:20 着) 16:30 発～新神戸駅(17:20 着)

◆◆六甲全山縦走西コーストレーニング

木下

須磨浦公園駅前を8:00に出発、新神戸駅に17:30到着。よく歩いた。六甲山全山縦走はこの倍を歩かないといけないと思うと、そのしんどさが思いやられる。天気は申し分なく汗をかきながらの山歩きだった。



須磨浦公園駅前でストレッチ後、リーダーの森本さんを先頭に9人のグループでスタート。30分弱でロープウェイ頂上駅に到着し集合写真を撮る。旗振山から高倉台団地までは林に包まれた気持ちのいい尾根歩きが続く。団地を抜け梅尾山までの急な階段を登りきると展望がひらけここで小休止。横尾山を過ぎたあたりで、風化した明るい茶色の岩場が連続する「馬の背」を通る。このあたりは須磨アルプスと呼ばれている。須磨アルプスを下りたところで市

街地に入り、阪神高速神戸山手線をくぐり妙法寺にでる。

ここから高取山をめざして歩く。登山道ぞいの山腹に大小二つの高圧線鉄塔があり、そこを越えると頂上は近い。荒熊神社を越えて頂上付近にある高取神社の下を歩いてしばらく歩き、しっかりしたトイレのある安井茶屋横の小広場で大休止し昼食をとる。この山はふもとの多くの住民に利用されているようだ。安井茶屋からしばらく下りの道を進むと丸山市街地に入る。

坂道の多い住宅街を電柱にある全山縦走のサインを確認しながら進み、神戸電鉄鶴越駅横に出てくる。この駅でリタイアする者もなく次の目的地である菊水山をめざす。島原貯水池の横の平坦な道をしばらく進むと急な登りとなる。菊水ゴルフ場を南に見ながらひたすら登ると、大きなパラボラアンテナが二つある菊水山の頂上につく。あいにくこの日はかすんでいて神戸市街がはっきりと見えなかったが、ここからの眺めはすばらしい。

最近、トレイルランという山道を走る人と会うことが多い。高御位山でもそうだが、六甲山でもたくさんいて、結構年配の人もいるのには驚かされる。

菊水山からは急な下りで、有馬街道を天王吊橋でわたり、鍋蓋山への登りとなる。鍋蓋山頂上で小休止。ここまですればあとは大きな登りもなくホットする。大竜寺山門、市ヶ原を歩いて桜茶屋まで行き、ここで全山縦走路から外れて下山コースに向かう。布引貯水池を横に見ながら歩き、布引の滝を歩いて新神戸駅手前の休憩所でクールダウンのストレッチ。赤木さんが声がけし、近くにいたおばさんも一緒にストレッチをして思わぬ地元の人との交流を楽しんだ。

最後は三ノ宮の「ざこば」で乾杯。リーダーの森本さん、ごくろうさまでした。



■六甲全山縦走トレーニング東コース

- 日 程：2月25日(日)
- 参加者：L藤本 SL山本(正一) 赤木 乙坂 笹木 高島 田中(重) 田羅間 西口 本田 矢根

- 行動記録：新神戸駅9:10発～市ヶ原(9:55着)10:00発～摩耶山・掬星台(11:35着)11:45発～六甲記念碑(13:15着)～凌雲台・ガーデンテラス(13:50着)14:00発～一軒茶屋(14:40着)14:55発～大谷乗越(16:40着)16:45発～塩尾寺(17:40着)

◆◆六甲全山縦走・東コーストレに参加して

田中(重)

東半縦コースに参加する事4度目(初回リタイヤと逆縦走含め)の挑戦となる。

天気は予報通りの曇りで、時おり薄日の射す縦走日和でした。

新神戸駅9時の集合でストレッチ後、藤本Lから役割分担とコースについての簡単な説明があり、塩尾寺(宝塚)へ向け出発。稲妻坂から天狗道を経て摩耶山までの厳しい登りで掬星台についたのが11時半頃、15分程の昼食タイム。

この時期は小鳥のさえずりも花も無い中、紫陽花の天然ドライフラワーが唯一心を和ませてくれました。

途中、休息を兼ねて藤原商店前と一軒茶屋で集合写真を撮る以外はひたすら歩く歩く……。ガーデンテラス・一軒茶屋・鳥居茶屋跡を過ぎ、しばらく続いた舗装道から宝塚への山道を北に進路をとり、ぬかるんだ下りに足を取られないよう気を引き締めながら歩を進め、船坂峠から大谷乗越への単調なコースで塩尾寺に到着したのが17時40分、小雨がばらつき薄暗くなりかけた坂道を休む間もなくゴールの宝塚を目指した。

11人のメンバー全員、無事完走できました・・・お疲れさまでした



* 軌跡記録<YAMAP>

新神戸から宝塚まで活動時間9時間08分 距離25.8Km

高低差852m 累積標高 上り2403m 下り 2438m



■氷ノ山 神大ヒュッテに泊まる アルプ

● 日 程：2月24日(土)～25日(日)

● 参加者：L竹内 SL砂川(延) 大谷 尾越 河崎 佐々木 須増 三木(悦)

● 行動記録：

(24日) 氷ノ山国際スキー場駐車場10:20発～東尾根登山口(11:15着)11:20発～東尾根避難小屋(12:00着)12:30発～神大ヒュッテ(14:30着・泊)

(25日) 神大ヒュッテ7:55発～氷ノ山頂上(8:40着)9:15発～東尾根避難小屋(10:30着)11:30発～東尾根登山口12:00～氷ノ山国際スキー場駐車場(12:50着)

◆◆ヒエの山の雪稜にて

河崎

東尾根登山口から尾根に向け、緩やかに上昇する雪道につけられたトレースは、ところどころ逡巡をにじませながら蛇行をくりかえしていた。雪質は湿性でべたつく感じがしていたが、幾人もの先行者のおかげで足元はしっかり踏み固められ、トレースを外さなければ踏み抜くことも少ない。予定した時間通りに東尾根に乗ると雪質は軽くなり、一ノ谷附近では発達した雪庇も見受けられるようになった。

14時半、雪深く埋もれた神大ヒュッテに到着した。深いところで2メートルほどもあるという。夏季とは異なる情景に心が躍った。入口は、先行者である神大OBの方々の労によって掘り返されていた。

建物の中に入り電灯のない暗がりの山小屋を観察する。中央の囲炉裏に鈍色の薪ストーブが置かれ、赤々とした炎を取り囲むようにして先行者の方々が食事をしていて、みな一斉にこちらに視線を投げる。表情が硬い。警戒心が滲んでいるように感じた。すぐに通された二階のロフト部屋はストーブから漏れでる煙で充満していた。今夜の寝床である。

営業小屋にはないその雰囲気は、まるで新田次郎が描く山小屋の様子に似ていた。程なく薪ストーブの周りに席を譲られた私たちは、彼らの煮込んでいる猪なべをごちそうになった。猪の煮汁が胃の腑にしみわたると、芯から冷えていた身体にぬくもりがあたえられた。その親切に心から感謝した。しだいに緊張感がほぐれ、談笑がまじり、おたがいの表情に明るみが帯び始めるころ、楽しみにしていた尾越さん特製のアヒージョがやってきた。ほのかなガーリックの香りが食欲をそそる。ワインを持ってこなかったことを深く後悔した。しめは麺が投入された豚肉の鍋。うまい。砂川会長からいただいた焼酎がすすんだ。この夜は、久しぶりの雪山泊に興奮して眠れなかった。

翌朝、ヒュッテの周辺はわずかにガスが漂っていた。下方から微風とともにせりあがって来る。それは辺りの樹林帯をもやの中に引きずりこんでいくような幻想的な現象を垣間見せる。

ゆうべのうちに少し積もった雪が、白と黒を基調とした霧氷の森を形成していた。

8時ごろヒュッテに別れを告げた。モンスターになりきれない巨木の隘路をくぐり山頂



避難小屋を目指す。空を見上げると彷徨うようにゆらめくガスのフィルターを通して淡い太陽の光がつめたく輝いていた。期待した空模様ではないが、魔性の山らしい翳みにつつまれた曇天のあやしげな表情もまた、この冬山に求めているものと似通っていた。

木々がひらけてくるとやがて山頂は近い。そこから派生するかのよう、流線を描くシュプールと、いくつものトレースには微塵も迷いがない。そして、雄大な三の丸が視界に入るところ、赤い屋根の建造物が目に飛び込んできた。山頂

避難小屋である。

豁然と白い山稜の雪原がそこに拡がり、多くの登山者を夢中にさせたこの山のピークがもうすぐそこにあった。息を弾ませながら、三角点に手をのせた。頂上からの眺望はどれも不鮮明である。鉢伏山が霞んで見えた。束の間の休息のあと、早々に下山を開始した。

10時半近く、東尾根避難小屋に到着すると餅を焼いた。女性のみなさんが作ってくれたぜんざいにそれを入れ、みんなでいただいた。甘い汁が全身の疲労をやわらげてくれた。

そこからの帰路は、アイゼンをつかった。刃は、急斜面のクラストした雪面によく効いた。しかし、融雪のすすんだ軟い箇所では何度も踏み抜き、なんどもよろめいた。ツリーポットに足をとられることもあった。みな難儀していた。正午前、登山口に近づくにつれ、この旅の終わりに切ないものを感じた。

白くて深い靄に包みこまれた霧氷の森、冷たく乾いた風。神大ヒュッテ、雪に鎧われた氷ノ山への未練もあった。会に所属して2年を過ぎてのはじめての一泊山行だったのも、その切なさに拍車をかけた。途中立ち寄った日帰り湯でそうした諸々の感情を洗い流した。つらかった登りの記憶も、きれいに払拭された。

ただ、遠くになりはじめた雪稜に想いを馳せながら、今度来るときには、自ら隊を編成し、この白銀に染まる※ヒエの山にあらためて足跡を刻みたいと強く感じた。

今回の山行では、佐々木さん、大谷さんとはじめて会話をさせていただきました。あらためて、皆さんとのつながりを大切にしていきたいとおもった山旅でした。リーダーの竹内さんはじめ、砂川会長、お世話くださった皆様ほんとうにありがとうございました。ひとつひとつが感謝です。

※天照大神が旭日に映える樹氷を見てヒエの山と呼んだことが名前の由来であるといわれている。

■スノーシューで巡る 霧ヶ峰・八島湿原の散策

日本のすばらしい雪の殿堂を一望に出来る、
初めての雪山体験は如何ですか。



- 日 程：3月1日(木)～3日(土)
- 参加者：L 砂川(延) SL 佐々木 大谷 笹木 田中(美) 田中(由) 谷口 西口 平石 廣岡 矢根

● 行動記録：

- (1日) J R 宝殿駅 8:40 発－西宮名塩 S A (9:40 着) 9:50 発－多賀 S A (11:15 着) 11:50 発－駒ヶ岳 S A (14:20 着) 14:30 発－諏訪湖 (14:50 着) 15:00 発－コロボックルヒュッテ (16:40 着・宿)
- (2日) コロボックルヒュッテ 9:30 発～写真タイム (9:50 着) 10:00 発～車山頂上 (10:15 着) 10:30 発～蝶々深山 (12:00 着) 12:10 発～休憩 (13:00 着・昼) 13:30 発～休憩 (14:30 着) 14:35 発～コロボックルヒュッテ (15:30 着)
- (3日) コロボックルヒュッテ 8:30 発－諏訪大社 (10:00 着) 10:15 発－岡谷 I C (10:30 着)－駒ヶ根 S A (11:10 着) 11:15 発－中津川 I C (12:00 着) 13:50 発－小牧 J C (14:30 着)－養老 S A (14:55 着) 15:10 発－彦根 I C (15:30 着)－京都南 I C (16:15 着)－吹田 (中国・I C (16:35 着)－西宮名塩 S A (16:50 着) 17:00 発－三木小野 I C (17:20 着)－J R 加古川駅 (17:55 着)－J R 宝殿駅 (18:10 着)－山電高砂駅 (18:40 着)

♣♣白雪に覆われた山野を歩く

田中(美)

昨夜は風雨が強かったが、一夜が明ければ晴天。集合場所の J R 宝殿駅から一路「コロボックルヒュッテ」に向けて出発。

到着して「ヒュッテ」に連絡してみましたが応答なし、居られないのではと恐る恐る「ヒュッテ」につくと灯りが付いていたのでひと安心。「ヒュッテ」の方からも連絡して貰っていたみたいで、“心配していました。”と聞く。

夜、床に就いて風の強さの音で“明日は大丈夫かなあー”と思いましたが、翌日は凄い快晴で空が澄みきっていました。ガイドさんは「コロボックルヒュッテ」のオーナーと、女性2名がサポートしてくださいました。近道する為、通常のルートから外れ、普通では味わえない散策となりました。ガイドさんが足跡のない雪の上を馬が走るような足どりで、トレースをつけてくださいました。私達が歩くのには、雪幅道が狭



い為、あちらでも、こちらでも滑って転び雪が深い為起き上がれず四苦八苦、中には体半分くらい埋まりうごめいておられる人も。

勾配50度位(もっとあったかも?)。長さ30m位の所をお尻で滑り下り、なかなか体験出来ない事をさせてもらいました。お昼は景色のいい所と思われたのですが風が強く、遅くなったのですが山麓で「サンドイッチ」と野菜ジュース。会長さんから温かいスープを頂きました。

楽しみにしていたスノーシューが終わりました。1日の締めくくりに車で15分程離れた「スズランの湯」でゆっくり身体を温め、帰りに夕陽が沈む絶景の所で車を止めてもらい、赤く染まった富士山、八ヶ岳連峰、中央アルプスなど夕陽が沈む時に見られる赤、紫、青など色合いのコントラストの凄さを見る事が出来ました。3日目は帰路へ

会長さん長距離の運転有難うございました。お疲れになられたことと思います。

会長さん、佐々木さん、会計の西口さん、参加者のみなさん有難うございました。

♣♣宿泊山行 霧ヶ峰スノーシューに参加して

廣岡

3月1日～3日、いよいよ霧ヶ峰に出発です。前日に何度も装備を点検し出したり入れたり。当日は春の嵐が吹くとのニュースで家族や友人から“気を付けて!!”の声を背に家を出ました。車窓から見る景色も少しずつ変わり8時間後にはアルプスの山々が雪をかぶりその美しさに興奮してしまいました。雪の中を走り小さな案内板の横に入ると、トウヒの林の中に高原の山小屋と言う感じの「コロボックルヒュッテ」に到着。

1日目は色々なメニューの夕食と2人が入らないとお湯の量が肩まで浸かれないお風呂で体を温めて急いで8時半には床につきました。高度1800mにある冬の山小屋のお風呂は厳しい～。風の音がする。明日はどうか良いお天気になりますように。



2日目は6時起床。ピューピューと風の音を耳にしなが、みんなの顔がこわばっている。

しかし朝のコーヒータムをしている間に何となく風はピタリと止まり女神が微笑んだかの様にスノーシュー日和に変わっていた。9時30分からスノーシューを付け1925mの車山山頂へ。

「山頂では素晴らしい景色が見えますからね」ガイドの言葉を信じて一生懸命山頂へ。「山

頂ですよ～」そこには360度の大パノラマ。ウワァー!!

焼岳・乗鞍岳・西穂高・槍ヶ岳・御嶽山。ちょっと向きを変えて浅間山。くっきりと霊峰富士山も眺める事ができました。雪をかぶったアルプスの峰々を堪能して尾根を歩いて八島が原湿原に向かいました。途中何度か尻餅をついて起き上がるのに難儀した。なぜ転ぶのかな?片方のスノーシューの上に乗ってしまいバランスを崩しているのだと分かり気をつけた。途中ショートカットするために30m～40m位お尻で滑り降りたところがあり11名がキヤー・ウォーと言いながら滑ったのは面白かった。もっと滑りたかった。八島湿原の周囲を散策。

8m以上もあるような泥炭層の湿原は雪や氷で真っ白。夏はいろんなお花で綺麗なんだろうな。鹿になったような気分で柵の横を1時間余りあるいたのかな。ガイド(実はヒュッテのオーナーと可愛い女性2人)が「この坂を30分登ればヒュッテにつきますヨ」最後に頑張れるかな、不安がよぎる。後ろにいたメンバーの方があと30分、ガンバレ、ガンバレと言ってくださった。

何とか小屋までつきました。＼(^o^)/バンザイ。そのあと白樺湖畔の温泉に行きあ〜いい湯だな〜途中夕陽に染まる富士の山、雪、空のコラボレーションに暫く、みんな見入りました。美しい景色を、まったく違う世界を身近に感じ自然の美しさ雄大さを堪能しました。夕食の後はコタツを囲んで団らんには花を咲かせました。

3日目は前日に登っているので予定の車山ピストンは止めて峰々に後ろ髪を惹かれながらお別れして諏訪神社にお詣り、真澄の酒屋で試飲し、銘菓を買い、道の駅にも寄り中津川でウナギを頂き最後に「生ういろう」を買いに走りと盛り沢山の宿泊山行でした。

心配していたお天気も最高の条件となり、よきメンバーに助けられ楽しい山行となりました。

砂川会長、長時間の運転お疲れ様でした。近寄り難かった、佐々木さんのちょっとした優しさ、意外性、面白いお話楽しかったです。皆様、ありがとうございました。次からはもう少し行動を敏速に心がけます。よろしく願いいたします。



♣♣素晴らしい景色・夕日が沈む瞬間！！

谷口

お天気が心配でしたが、1昨年に続き最高の青空のもと、楽しく山行が出来たことを心から喜んでおります。出発の2、3日前にお電話した時はやめようかと迷いましたが、今回参加して本当に素晴らしい景色に会うことができました。

タイミングよく夕日が沈む瞬間、その後の山の変化もみられて感激です。本当にありがとうございました。

また、“気温が低い時は手足の先から冷えてくる”と聞いていましたが、2日の朝早く外に出て写真を撮っていると、あっという間に手の感覚が鈍くなり手の甲が赤紫になったのにはびっくりしました。

♣♣最高のロケーション・霧ヶ峰

平石

霧ヶ峰高原スノーシュー山行では大変お世話になりました。

連れて行っていただいたことに感謝しています。とても個人では行けないし、初めてだったのでメチャ感動しました。

素晴らしい天候と最高のロケーションを思う存分満喫することができ、生涯忘れられない思い出になりました。

また、帰り道の買い物ツアーやグルメと盛りだくさんの楽しいことも、会長さんが運転してくださっているからできることだと重ねて感謝感謝です。

主人は、お土産に買った「お酒とワイン」早速飲んでいました。気に入っているようです。長い長い道のりを安全運転で、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。



■八幡山(286m) 滋賀県近江八幡市 女性委員会山行 展望とスイーツ、町歩きを楽しむ

- 日 程：3月7日(水)
- 参加者：La 藤原(千) SLa 大谷 有本 狩集 河合 川上 黒本 田中(美) 田中(由)
Lb 澤田(律) SLb 垣内 苦瓜 橋本(万) 開 村上 矢根 山下(純)

- 行動記録：近江八幡駅 9:40 発～日牟禮八幡宮(10:15 着) 10:35 発～八幡山(11:35 着) 12:00 発～北ノ庄城跡(12:20 着)～北ノ庄神社(12:50 着)～ラコリーナ(13:15 着) 14:30 発～近江八幡駅(15:35 着)

♣♣八幡山とスイーツ、町歩きを楽しむ

開

前々日からの春の嵐で当日の天候が心配されましたが、良い天気にも恵まれ、青春18切符で近江八幡駅に到着しました。街中を30分程歩き日牟八幡宮につきました。八幡宮に参拝し、境内の角をお借りしてストレッチをしました。

登山口に向かうと、左義長祭りのお稽古のにぎやかなお囃子が聞こえてきました。左義長祭りとは3月17日、18日に日牟八幡宮で行われる火祭りだそうで、私は初めて知りました。

歩きやすい山道を登り、八幡山ロープウェイの山頂に到着し、トイレ休憩や琵琶湖が見える眺望を楽しみました。スイーツが待っているのでお昼も早く切り上げ「ラコリーナ」を目指しました。歩いた後の焼きたてバームクーヘンとコーヒー格別美味しかったです。

近江八幡駅までの道中はさすがに城下町で古い家並みが残っていて情緒がありました。雛人形を見たり、琵琶湖の佃煮屋さんに寄ったりで良い時間を過ごせました。

楽しい山行を有難うございました。



六甲縦走大会

今年も出るぞ

■兵庫労山主催 第52回六甲全山縦走

- 日 程：3月11日(日)
- 参加者：L 山本(正一) SL 赤木 須増 土井 橋本(健) 福田 前川(克)
山下(雅)

- 行動記録：須磨浦公園駅 6:15 発～須磨浦展望台 6:35～須磨アルプス 7:45～妙法寺(8:20 着) 8:35 発～高取山(9:17 着) 9:25 発～菊水山(11:05 着) 11:20 発～鍋蓋山 12:15～大竜寺(12:40 着) 12:48 発～市ヶ原(13:00 着) 13:10 発～摩耶山(14:40 着) 14:50 発～記念碑台 15:55～ガーデンテラス(16:20 着) 16:30 発～一軒茶屋(17:10 着) 17:15 発～船坂峠 18:00～大谷乗越 18:45～塩尾寺 19:35～広場ゴール 19:50 着

◆◆兵庫労山六甲全山縦走に参加して

橋本(健)



まだ暗く寒い朝でしたが山陽電車の始発に乗り須磨浦公園に向かった。縦走のことを何も知らない2年前に縦走トレーニングに参加して大変しんどかった思い出があり、今回も不安を抱えての参加だ。

全縦走は登る高さを合わせると約3,000mになり、5合目から頂上まで登る富士登山と比べると約2倍になるようだ。

受付で第52回大会の参加ワッペンと記念の布袋を頂き、縦走のスタートとなった。

鉢伏山の頂上に近づき、後ろを振り返ると海の上に眩しい朝日が輝いていた。また梅尾山から見える海の景色は絶景であった。下りの階段で後ろにいたSさんが転んで私の横に倒れてきたのでビックリしたが、幸い怪我は無くて良かった。塗装をしたコンクリート製の杭を横向きに置いて階段が造られている、それに足を滑らせてしまったらしい。

さほど危険を感じないところの事故であり、油断は禁物である。

きつい菊水山から天王吊橋を渡り鍋蓋山に登るところで渋滞が発生していた。そこへ消防車のカネが鳴り響いたと思ったら、菊水山と鍋蓋山の間でヘリコプターが旋回を始めた。団地で火災が発生しているようで、みんながそれを見るため余計に渋滞が激しくなる。

市ヶ原で休憩するが、まだ縦走の半分である。登りのきつい摩耶山を目指してスタートする。

掬星台の手前の電波塔で熱い紅茶のサービスがあり、あまりの美味しさにお代りをした。掬星台でリーダーのYさんとMさんと遅れているSさんを待つことになった。ここからは女性のFさんが先頭でガーデンテラスを目指した。休憩中にMさんが頑張って追い付いてきたので驚いた。

六甲最高峰のチェックポイントを通過し、ここからは下り坂が多くなる。日も落ちて宝塚の夜景が見えるようになりました。周りは真っ暗だがゴールの明かりが見えた時はホットした。

ゴールでは、名前入りの完走証をすぐに頂き、何故すぐに名前が入ったものが頂けるのか不思議だった。それはベテランのAさんが教えてくれた。最終チェックポイントで情報が送られてくるので準備しているとのこと。ぜんざいを頂いて疲れも少しとれ、なんとか宝塚駅まで歩いた。出来れば来年度も挑戦したいと思います。

お世話になった皆さん有難う御座いました。



■白山・妙見山(黒田庄町)加古川線に乗ってノンビリと

- 日 程：3月14日(水)
- 参加者：L佐々木 SL三木(悦) 内海 大谷 狩集 木下 開 和田

- 行動記録：本黒田駅8:45発～荘厳寺(9:10着)9:27発～たわ(10:20着)10:26発～妙見山(10:45着)10:50発～妙見堂(11:15着)11:18発～白山(12:10着)12:45発～とがのお13:00発～フォルクスガーデン14:30発～黒田庄駅(15:00着)

J R加古川駅午前7時17分発の加古川線西脇市駅行の電車に乗る。がら空きの車両を予想していたが座席はほぼ埋まり、立っている人もちらほらいる。西脇市駅で谷川行の電車に乗り換え本黒田駅で降りる。

本黒田駅から妙見山への登山口にあたる荘厳寺をめざして一般道を歩く。25分ほど歩くと荘厳寺に到着。立派なお寺で、黒田官兵衛はここで生まれ育ったと証する文書も展示されているらしい。黒田家略系図展示場という看板のある寺前の広場でストレッチを行う。

寺からしばらく谷添いの林道を登る。『熊出没、注意』の標識がある害獣よけのフェンスを通り、杉の落ち葉を踏みながらほぼまっすぐに伸びた道を歩く。しばらくして掘立小屋のある広場に出る。ここから山道となり、寺から1時間弱杉林の中を歩いたところで「たわ」と彫られた小さな石柱と出会う。地形図上で鞍部を意味する言葉だそう。ここから十字路を経て20分ほどで妙見山頂(622m)に到着。展望はひらけない。早々に歩きはじめる。周遊コースの途中、妙見堂と呼ばれる立派な建物に出会う。

妙見堂は妙見菩薩を祀るお堂で、妙見菩薩は北極星を神格化した菩薩で国土を守り、災害を除去し、人の寿命を延ばすと言われている。妙見さんのお祭りは北極星と北斗七星をまつる信仰だそう。

十字路から樹木の中の尾根道を歩き白山に向かう。

小1時間ほど歩くと白山の頂上(510m)だ。

ここだけは展望がひらけ、振り返ると登り口付近の建物や妙見山が見え、南には三角点山(457m)が望まれる。ここで昼食と大休止をとる。

リーダーの佐々木さんがラーメンを作ってみんなにふるまってくたさる。箸、容器も準備していただき、ごちそうさまでした。



白山からは尾根ぞいに平らな道と小さなアップダウンを繰り返しながら高度を下げていき、2時間弱で秋谷の先にあるフォルクスガーデンに到着。残念ながら水曜日は定休日で閉店。黒田牛を売っているという近くのJAの店も営業しておらずビールを期待していたU氏はがっかり。一般道を黒田庄駅めざして歩く。途中、大きな牛の銅像がある兵主神社の茅葺建物の前でストレッチをする。

黒田庄駅にある喫茶店で冷たい水をごちそうになり、J R加古川線の旅を楽しんでJ R加古川駅に到着し解散。

白山・妙見山トレッキングコースという概略図も作られていて、山道や道標は割合としっかりとして迷うことはない。この時期、山道は落ち葉の絨毯を歩いている感じがする。平日とあって他の登山客と出会うことはなかったが、天気恵まれ4月下旬から5月上旬の気温で春山気分の山行が楽しめた。参加された皆様、ありがとうございました。